

下野市都市交通マスタープラン検討委員会 議事録

審議会等名 令和3年度 第4回下野市都市交通マスタープラン検討委員会
日 時 令和3年7月28日(水) 午後2時00分～午後3時00分
会 場 下野市役所3階 303会議室
出席者 長田 哲平 委員長、神谷 雅美 委員、山田 博 委員、山本 隆 委員、
山中 宏美 委員、渡邊 欣宥 委員、原 貞夫 委員、石田 陽一 委員、
塩田 和也 委員、保坂 和夫 委員、荒川 弘幸 委員、水元 信吉 委員、
井上 啓 委員、谷 英夫 委員、吉川 浩 委員、
嶋田 幸男 委員、小島 悟 委員、角田 佳子 委員、野澤 等 委員
【欠席委員】
今 佐知子 委員、茂木 正行 委員

市側出席者 (事務局) 保沢 明 建設水道部長、篠崎 国男 都市計画課長
川俣 貴史 課長補佐、鈴木 昌和 主幹 飯野 博之 副主幹、
倉井 豊和 主査、古味 龍一 技師
株式会社 建設技術研究所 (計画策定コンサルタント)

公開・非公開の別 (公開 ・ 一部公開 ・ 非公開)

傍聴者 1名

議事録(概要) 作成年月日 令和3年10月19日

《以降は会議次第に基づき記載する。》

【協議事項等】

- 1 開 会 (事務局)
- 2 委員長あいさつ (長田 哲平 委員長)
- 3 議 事

事務局

議事の前に、配布書類と会議の成立について報告をする。

【配布書類】

- ・ 第4回 (令和3年度) 下野市都市交通マスタープラン検討委員会次第
- ・ 下野市都市交通マスタープラン検討委員会名簿
- ・ 資料1 下野市都市計画マスタープラン素案 (骨子)
- ・ 資料2 策定スケジュール (案)
- ・ 資料3 令和2年度 第3回下野市都市交通マスタープラン検討委員会 議事録

【会議の成立】

成立の要件：半数以上の委員の出席 (要綱第6条第2項)

委 員 数：21名 (半数=12名)

出席委員数：19名 (>12名)

成立・不成立の別： **成立** ・ 不成立

報告は以上。議事進行は、要綱第6条第1項の規定に基づき、長田 哲平 委員長にお願いする。

長田 哲平 委員長

はじめに、議事録署名人を指名する。名簿順で6番 渡邊 欣宥 委員と7番 原 貞夫 委員にお願いする。

議事に移る。議題 都市交通マスタープラン素案（骨子）について、事務局の説明を求める。

事務局

（資料1により説明）

長田 哲平 委員長

前回の委員会での委員からのご意見を反映した資料になっている。資料内の写真や図表などは完成までにバージョンアップさせるようにしていきたい。例えば、資料 p20の「ICT や AI を活用した予約システムや支払方法の導入検討」はすでに下野市で実施しているので、最新の図表を入れるようにする。質問を求める。

渡邊 欣宥 委員

委員長からお話しあったとおり、施策の解説に用いている概念図やイラストなどについて、栃木県に関係のないものが掲載されている。概念の形でもよいので、できるだけ「下野市ではこういう形をとりたい」というようなものを掲載してもらいたい。

長田 哲平 委員長

なるべくそうしたい。ほかに質問を求める。資料 p14のA3版の施策展開の方向性をご覧いただくと一番分かりやすい。足りないとお考えの施策があればご指摘願う。

石田 陽一 委員

（資料 p17）

3環状6放射の道路網整備は確かにメリットが出てくると思う。石橋駅、自治医大駅、小金井駅というJR幹線の宇都宮線の3駅と3環状6放射の道路で、まとまりがとてもよい。

だが、都市計画そのものを変えていかないといけない。

道路網は十分に整備されている。駅から1キロ、1.5キロの範囲しか都市計画になっていない。都市計画で3駅をつなぐぐらいのものに根本的に変えないと、道路がいくら整備されても、下野市の一体化が進まない。下野市商工会と石橋商工会があり、下野市商工会には国分寺と南河内があり仁良川と薬師寺も入っているが、商店が一体化していない。まず、縦に一体化すれば、都市交通もからんできてよい市になれるのではないかと思う。

長田 哲平 委員長

交通だけでなく土地利用の話でもある。事務局いかがか。

事務局

石田委員に確認したい。都市計画道路の見直しのお話しなのか、それとも都市計画の区域区分のお話なのか。

石田 陽一 委員

区域区分の話である。

都市計画道路は昔から決まっていた、今どうしても施工するという事になっていたり、時代にマッチしていない部分もあるので、区域区分を変えていかないことには、道路の計画があってもまとまっていけない。交通の会議には少し違うが、これから10年、15年後にこうしていきたいというものを作っていくには、区域区分を変えることをしていけないといけない。

事務局

立地適正化計画と密接に関係している都市交通マスタープランであるので、そのあたりも念頭に入れて検討していかなくてはいけないと思う。

下野市では現在、都市核形成の可能性調査を実施していて、今後の展開についてどのような可能性があるのかを調査しているので、それらを含めて検討していきたい。

長田 哲平 委員長

資料 p10 の都市計画マスタープランで、将来都市構造図の中心部の都市機能集積に関する事なので、このあたりの議論をこの会議とは別であるが土地利用サイドでできればと思う。

野澤 等 委員

素案の中にある「図ります」「推進します」「検討します」「検討を進めます」等、語尾がいろいろあるが、どのように進めるのか、力を入れるのかどうか説明願う。

事務局

今後2回の会議が予定されていて、今回は素案の骨子である。表現の統一については、ご意見を頂きながら今後精査していく予定である。

長田 哲平 委員長

今回の会議での提示になる目次の「6. 実施する施策・取り組み」「7. 計画推進に向けた取組・推進体制」がしっかり見えてくると、進路も見えてくると思う。

渡邊 欣宥 委員

(資料 p47)

時差出勤などは市民や企業に協力を要請しなくては進まない施策である。企業への協力の働きかけなども具体的に計画に位置付けてはいかかがか。

エコドライブの推進について、燃費の節約よりも、20年後にはガソリン車の新車販売はなくなるということが国の施策で出ている。そのあたりも載せてはいかかがか。

事務局

企業への働きかけについては、今後、「6. 実施する施策・取り組み」「7. 計画推進に向けた取組・推進体制」に記載していきたい。ご意見を庁内で検討する。

委員ご指摘のとおり、自動車の技術革新が進んでいるため、記載内容の書き換えについてご意見をふまえ庁内で検討する。

長田 哲平 委員長

行政機関の委員の皆様から、国・県の流れを踏まえて、足りない施策はないか。ご指摘いただきたい。

谷 英夫 委員

(資料 p25)

時差出勤について、栃木県ではエコ通勤を推進していて、従来は県庁と市町の市役所・役場で取り組んできたが、民間の方も協力いただいて広がってきている。

ただし、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、例年とは違った形で推進した。市には、このエコ通勤とタイアップして取り組んでもらいたい。

石田委員からご指摘のあった3駅をつなぐ必要があるということについて、宇都宮市では拠点を充実させ、それを道路と公共交通でつなぐというコンパクトプラスネットワークという方向で進めている。その例が街の中心部と東側をつなぐLRTである。

14Pの施策展開の方向性が、コンパクトシティをつくるためのネットワークという表現なので、宇都宮市を参考に少し工夫してコンパクトプラスネットワークという考えを出していただければ、3駅をつなぐというご要望に少しお応えできるのではないかと。

長田 哲平 委員長

国がコンパクトプラスネットワークを提唱しているので、書き改めるようにしたい。

石田 陽一 委員

コンパクトプラスネットワークについて、3駅はあまり距離も離れていないので、小さいものをいくつも考えるよりは、市街地の位置づけを現状よりも大きく一体的に考える必要がある。今すぐというわけではないが。

策定スケジュールでは、本委員会の後に都市計画審議会も開催され、将来構想ができてくるので、公共交通のみではなく、これらも盛り込んで都市計画審議会を進めて欲しい。

長田 哲平 委員長

「緑」に関することは今回の検討には入っていないのか。

事務局

緑に関しては、市の景観計画で記載しているため、都市交通マスタープランの施策としては記載していない。

野澤 等 委員

県道では、歩道の樹木が大きくなり通行できないところがある。今後具体的な話し合いになるのではと思うが、国・県はどう考えているのかお聞きしたい。

事務局

市道では歩道のバリアフリー化を考えている。昔整備した歩道はマウントアップが多いので、歩道と車道の段差をなくしていく。植樹帯があると歩道の幅員を有効に使えないことがあり、特に通学路と交通弱者が使う歩道はなるべく有効幅員を広くしバリアフリー化するよう見直しをすることで計画している。全線整備はすぐにはできないので、少しずつ整備する方向で考えている。

野澤 等 委員

そのようなことであれば、計画に計上し、歩道整備はしっかりやってもらいたい。

長田 哲平 委員長

道路空間の歩道や車道をどう使っていったらよいのかという議論がなされているところなので、シニアカーや電動キックボードなどが入ってくると変わってくるのではと思う。

原 貞夫 委員

夏場は暑くて歩道は歩ける状態ではない。自転車に乗るときは、車道が危ないため歩道を走っているが、少し離れると車歩道区分がなくなり車道を走るのが非常に怖い。歩道の樹木が太くなって歩道が凸凹になるという話があったが、歩行者にとっては暑さを避けるため樹木があったほうがよい。使われていない森林の中に歩道があったら涼しくてよいと思う。異常気象が当たり前になってきているなかで、暮らしやすい道路整備を考えていただきたい。

事務局

歩行者や自転車にもやさしい歩道環境の整備について検討する。

長田 哲平 委員長

ウォーカブルや自転車の走行空間の確保についても、計画にもう少し落とし込めると、そのような話につながると思う。議題について質問を求める。

(質問なし)

質問なしと認める。これ以降お気づきの点があれば事務局にお伝え願う。議題は以上であるため、その他ご質問はあるか。

(質問なし)

議事は終了とし会議の進行を事務局に返す。

4 その他

事務局

資料2 策定スケジュール(案)について説明

5 閉会〈事務局〉